

# 北海道医歌人会詠草

卒后五十五年

美唄 吉村 誠治

北国にロマンのあらん津軽の海渡り来し友傘寿となれり

学成りて五十五年か旭岳に都ぞ弥生肩組みて歌ふ

スピーチに立つ我が学友の過し方の八十年の生安からず

若き日の面影残す友なれど杖つく人のいたくふえたり

医師となり五十五年を過ごし来て地域医療に我等盡くせり

## スミソニアン(資料館)

札幌 山口 康徳

目を掩ふ惨状を視せむと企画せし資料館は閉鎖の憂目を

気骨ある閣僚入りて若きらの暴走糾す行動期待す

原爆の部品を置いて帰投せる巡艦おそふ潜艦と鮫恐し

来る日も猛暑にあへぐ人々に実色づけりと七竈云ふ

七五年草木生えぬとふ灼けし地に青く伸びたる楠靱し

## 往事茫々

札幌 小国 孝徳

解剖に食欲失ひし吾がグルツペ薄野に半玉を呼びて飲みにき

農学部 of 玄関前の階段に叫びし東条の幻あはれ

村長か事務長として茂吉をあしらひし精神科の連中を吾は許さず

平松先生と吾を並べて論じたるエッセイありて頭を垂れぬ

ぼろぼろになりし上顎骨も撮されて吾の齢も極まれるらし

## 職場健診

札幌 古屋 統

禁煙の赤文字の紙貼る傍に自販機を置く社員食堂

買へる煙草二十四種類箱書きの警告の文体十指に余る

心筋梗塞肺気腫を意に介せねば警告の文字の太さを撰ぶ

職場健診幼な娘ら付いて来てママたばこしてると年下が言う

自分だけは禁煙したが妻喫ふと歯痒さを言ふ夫のありて